

## 6 超音波センター



超音波指導医・専門医、超音波検査士が中心となり各科主治医と連携し、的確で迅速な診断を目指している。緊急検査に対しては即日対応、紹介患者に対しては各診療科と連携するなどし、院内外にわたり臨機応変に対応している。また、超音波センターは腹部造影超音波検査数が国内でも有数であるが、この超音波造影剤にはほとんど副作用がないので、CTやMRIの造影剤が使用困難な腎障害患者に対しても、高い空間・時間分解能で腹部腫瘍などの適切な診断が可能である。更に、平成24年から肝硬度を非侵襲的に計測し、線維化進展度診断を可能とする肝硬度測定検査が新たに保険適応となり、注目を浴びているが、この非侵襲的線維化診断の症例数も世界有数となっている。さらには造影超音波を用いた非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）診断や肝障害度評価にも積極的に取り組んでいる。特に、この数年は肝硬度、乳腺検査、下肢動静脈等、血管検査件数のニーズの増加も著明であり、施行件数も年々増加している。

6-1 年度別超音波検査件数 (件)

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度 構成比率 (%)
入院	8,817	9,718	10,812	10,524	10,313	27.3
外来	22,678	25,051	26,033	26,675	27,522	72.7
合計	31,495	34,769	36,845	37,199	37,835	100.0

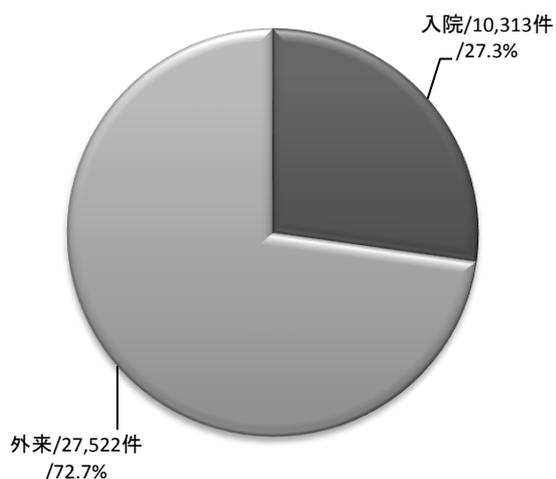
6-2 年度別超音波検査入院外来別点数 (点)

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度 構成比率 (%)
入院	8,076,970	8,501,690	8,895,790	9,000,490	8,881,070	34.2
外来	14,812,500	19,003,530	16,826,100	16,614,020	17,070,250	65.8
合計	22,889,470	27,505,220	25,721,890	25,614,510	25,951,320	100.0

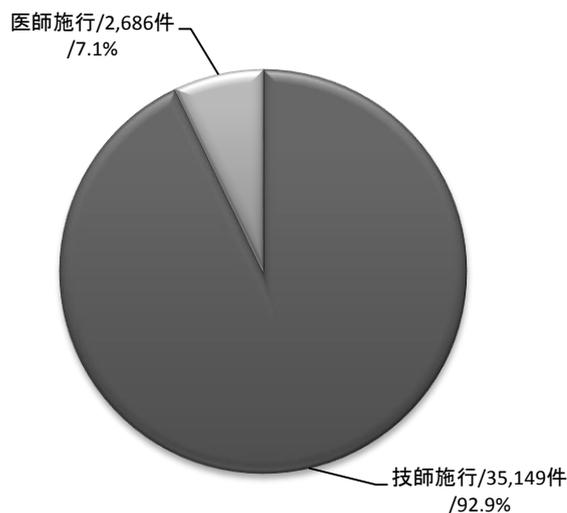
6-3 年度別超音波技師・医師別施行数 (件)

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度 構成比率 (%)
技師施行	29,350	31,459	34,796	35,395	35,149	92.9
医師施行	2,145	3,310	2,049	1,804	2,686	7.1
合計	31,495	34,769	36,845	37,199	37,835	100.0

6-4 28年度超音波検査件数の構成比率 (合計37,835件)



6-5 28年度超音波技師・医師別施行件数の構成比率 (合計37,835件)



6-6 年度別超音波検査別件数

(件)

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	28年度 構成比率(%)
心エコー	11,135	11,586	12,239	11,835	11,719	31.0
経食道心エコー	254	276	382	386	562	1.5
負荷心エコー	8	4	4	1	12	0.03
胸腹部	9,941	10,459	10,575	10,738	10,844	28.7
(ドブラ)	(3,914)	(4,305)	(4,766)	(4,976)	(5,120)	
甲状腺・頸部	1,135	1,191	1,056	1,175	1,162	3.1
(ドブラ)	(134)	(154)	(140)	(183)	(246)	
乳腺	2,125	1,963	2,083	2,188	2,274	6.0
(ドブラ)	(87)	(15)	(6)	(10)	(17)	
表在	2,571	3,196	3,706	3,970	4,157	11.0
(ドブラ)	(2,562)	(3,113)	(3,604)	(3,846)	(3,948)	
頸動脈	1,281	1,625	1,804	1,830	1,815	4.8
(ドブラ)	(1,281)	(1,625)	(1,804)	(1,830)	(1,815)	
肝硬度	1,530	2,807	3,427	3,617	3,882	10.3
生検	456	520	431	454	376	1.0
RFA・その他処置	112	111	119	72	80	0.2
造影	947	1,031	1,019	933	952	2.5
合計	31,495	34,769	36,845	37,199	37,835	100.0

6-7 超音波検査別件数の年度別推移

(件)

